

伊達市の概況

(令和元年度版)



(写真：だて歴史文化ミュージアム)



もくじ

第1章 伊達市の概況

1	伊達市の成り立ち	1
2	位置と気象	3
3	人口・世帯数	3

第2章 伊達市の産業

1	就業構造	6
2	産業	6
(1)	農林業	7
(2)	水産業	9
(3)	商業	10
(4)	工業	11
(5)	観光	12

第3章 その他

1	道路の現況	16
2	上下水道の普及率	16
3	姉妹都市等の提携状況	16
4	市内指定文化財一覧	18
5	市内の主な公共施設一覧	19
6	伊達市のあゆみ	20

第4章 まちづくりの基本構想(第7次伊達市総合計画)

1	将来像	24
2	施策の体系	25

第1章 伊達市の概況

1. 伊達市の成り立ち

伊達市は少子高齢社会の到来、逼迫する地方財政といった課題に立ち向かい、地方分権による自主自立のまちづくりの基礎固めを行うために、平成18(2006)年3月に大滝区(旧大滝村)と合併をし、新伊達市として新たなスタートを切りました。

依然として厳しい社会情勢が続きますが、活力を失わずに、希望が持てるまちづくりを推進するため市民の皆さんとともに策定した、第7次伊達市総合計画(令和元(2019)年度～令和10(2028)年度)が本年度から始まりました。

こうした状況の中で、本市が直面する課題を克服し、市民皆が誇りを持ち、豊かさを感じながら生活できるまちを実現するために、将来像を「みんなが豊かさを感じられる 市民幸福度最高のまち」と定めて「まちづくり」を展開しています。

【伊達地域(旧伊達市)の成り立ち】

伊達地域の開拓は、明治3(1870)年、仙台藩一門亘理領主伊達邦成(だてくにしげ)とその家臣たちの自費による集団移住という他に類を見ない独特の形態で行われており、北海道においてはとりわけ古い歴史と伝統文化を有しています。

明治33(1900)年の一級町村制施行による有珠郡東紋鼈村(ひがしもんべつむら)、西紋鼈村(にしもんべつむら)、長流村(おさるむら)、有珠村(うすむら)、稀府村(まれつぶむら)、黄金藪村(おこんしべむら)の合併による伊達村の誕生、大正14(1924)年の町制施行、昭和47(1972)年の道内33番目となる市制施行を経ております。

北海道の中心である札幌市からはJRや高速道路の利用により約100分の距離に位置し、海と山と湖に囲まれた田園風景の広がる街は、豊かな自然環境と四季を通じて温暖なことから「北の湘南」と称されるなど、快適な居住地として知られています。

【大滝区(旧大滝村)の成り立ち】

大滝区の開拓は明治28(1895)年に鹿児島県人の橋口文蔵が優徳および北湯沢に農場を拓いたのが開拓の始まりと伝えられ、一帯は壮瞥村の管轄として入植者を増やしていました。

大正4(1915)年には壮瞥村から分村し徳舜瞥村となり、昭和25(1950)年には大滝村と改称、森林産業、農業、鉱業の隆盛とともに歩み続けてきましたが、昭和30年代後半以降は、零細経営農家の離農、徳舜瞥鉱山の閉山等により急激な過疎現象に見舞われました。

その後、「福祉村構想」や「観光施策の推進」などあらたな地域づくりを展開した結果、就業機会の拡大などにより定住人口もある程度回復し、急激な過疎化の進行からは脱却しましたが、若年層の流出、高齢者比率の増加など、現在も過疎化の問題は継続しています。

交通アクセス



■伊達地域へのアクセス■

- 札幌から 車（道央自動車道） 約1時間40分
車（中山峠経由：R230・R276・R453） 約2時間20分
車（美笛峠経由：R453・R276・R453） 約2時間30分
JR特急 約1時間40分
- 千歳から 車（道央自動車道） 約1時間20分
JR特急 約1時間20分
- 函館から 車（R5・道央自動車道） 約2時間40分
JR特急 約2時間00分

【伊達市大滝区】

- 札幌から 車（中山峠経由：R230・R276） 約1時間50分
車（美笛峠経由：R453・R276） 約1時間40分
- 伊達地域から 車（R453） 約40分

2. 位置と気象

本市は北海道の中央南西部、道都札幌市と函館市の中間に位置します。伊達地域と大滝区は壮瞥町を挟み、東は登別市・白老町・千歳市、西は喜茂別町・留寿都村・洞爺湖町、南は室蘭市、北は札幌市と隣接しており、合併後の面積は 444.2k m²となっています。

噴火湾(内浦湾)に面する伊達地域は、日本海から津軽海峡を通過する対馬暖流の影響を受けるため、四季を通じて温暖であり、農作物も豊富で秋には柿が実るほどです。また初雪も 11 月と遅く、降雪量も少ないとから、積雪による交通障害は極めて稀です。

厳しい冬の期間が長い北海道において、本市はもつとも恵まれた気象条件を有していることから「北の湘南」といわれています。また、夏場は過ごしやすい気候であることから、夏の間だけ避暑のために伊達地域へ訪れる方が増えています。

一方、内陸に位置する大滝区は内陸性の気候となっており、例年、最深積雪が 100cm を上回り、北海道の冬の厳しさを感じられます。

伊達市の気候

	最高気温 (°C)	最低気温 (°C)	平均気温 (°C)	最大風速 (m/s)	平均風速 (m/s)	日照時間 (h/年)	最深積雪 (cm)	降水量 (mm/年)
伊達地域	29.8	-16.7	9.0	南東 18.4	3.2	1,697.8	—	873.0
大滝区	30.2	-24.9	5.9	東南東 10.0	1.6	1,397.7	208	1,643.0

〈気象庁札幌管区室蘭地方気象台 2018 データ〉

3. 人口・世帯数

伊達地域と大滝区の人口は、昭和 60(1985) 年以降、ほぼ横ばいで推移しており、平成 17(2005) 年の国勢調査では 14,989 世帯、37,066 人、世帯人員は 2.47 人であったのが、合併後の平成 22(2010) 年の国勢調査では、15,287 世帯、36,278 人、世帯人員 2.37 人となり、世帯数が増加する一方、世帯人員が減少していました。

平成 27(2015) 年の国勢調査では、15,054 世帯、34,995 人、世帯人員は 2.32 人となり、世帯数、人口、世帯人員の全てが減少となりました。

人口動態では、周辺市町村からの流入に加え、恵まれた気候風土を反映して道内外各地から移住する人が多い一方、若年層の都市部への人口流出が続いている。

年齢構成をみると年少人口(0~15 歳)は、平成 7(1995) 年では 14.9%、平成 12(2000) 年では 12.9%、平成 17(2005) 年では 12.5%、平成 22(2010) 年では 11.8%、平成 27(2015) 年では 11.3% と、出生率の低下により暫時低下してきています。また老人人口(65 歳以上)は、平成 7(1995) 年では 19.2%、平成 12(2000) 年では 23.5%、平成 17(2005) 年では 27.0%、平成 22(2010) 年では 30.4%、平成 27(2015) 年では 34.6% と増加してきており、全道平均の 29.1%、全国平均の 26.6% を上回っており、高齢化の動きが顕著となっています。また、国立社会保障・人口問題研究所が発表している将来人口推計では、令和 2(2020) 年に総人口は 33,520 人に減少し、老人人口の割合を 38.0% とする高い推計となっています。

5歳階級別人口

(単位：人、%)

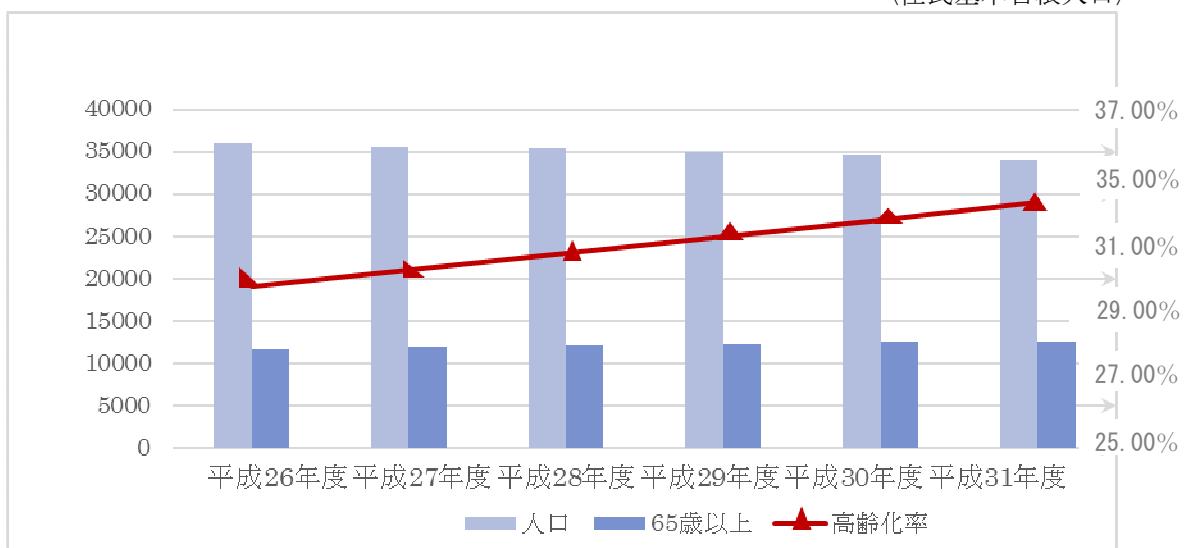
年齢区分	平成 31(2019)年	平成 27(2015)年	増減	構成比	
	(H31.4.1住基台帳)	(国勢調査)		平成 31 年	平成 27 年
0~4 歳	960	1,125	△165	2.00%	3.21%
5~9 歳	1,185	1,359	△174	3.47%	3.88%
10~14 歳	1,449	1,482	△33	4.25%	4.23%
15~19 歳	1,427	1,445	△18	4.18%	4.13%
20~24 歳	1,215	1,082	133	3.56%	3.09%
25~29 歳	1,229	1,202	27	3.60%	3.43%
30~34 歳	1,284	1,521	△237	3.76%	4.35%
35~39 歳	1,675	2,002	△327	4.91%	5.72%
40~44 歳	2,263	2,486	△223	6.63%	7.10%
45~49 歳	2,421	2,108	313	7.10%	6.02%
50~54 歳	2,083	2,041	42	6.11%	5.83%
55~59 歳	2,062	2,177	△115	6.04%	6.22%
60~64 歳	2,272	2,846	△574	6.66%	8.13%
65 歳以上	12,558	12,107	451	36.84%	34.60%
不詳	0	12	△12	0.0%	0.01%
総数	34,083	34,995	△912	100.0%	100.0%

※増減は国勢調査を基準として計算した数値になります。

〈平成 27 年国勢調査 平成 31(2019) 年住民基本台帳人口〉

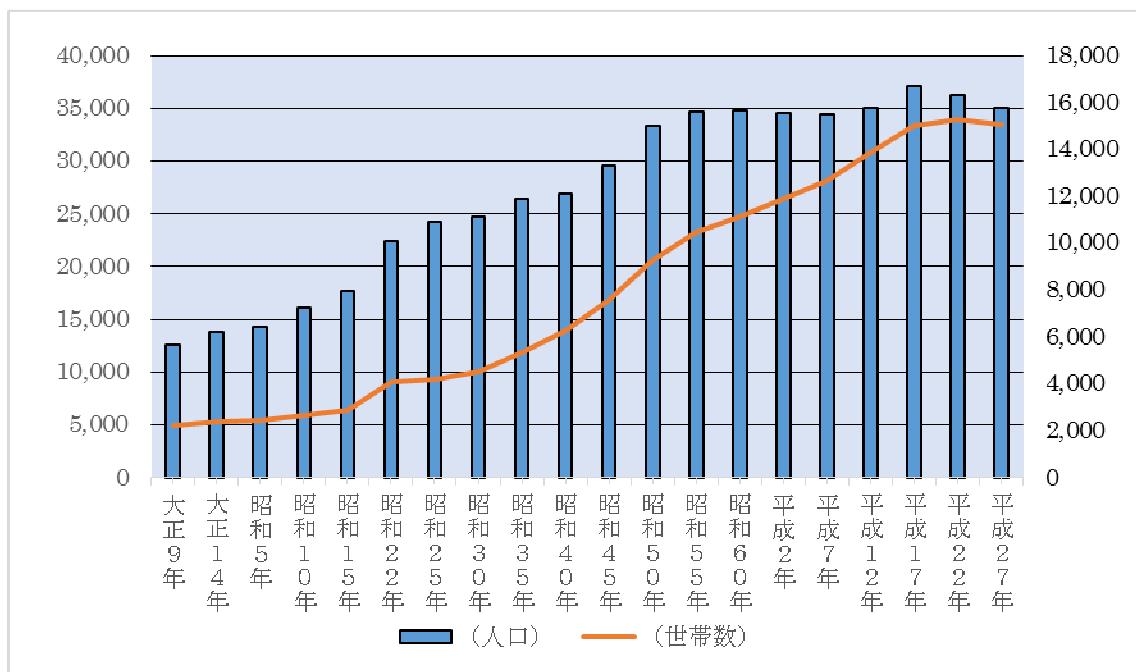
年度別住民基本台帳人口(各年度 4 月 1 日現在)

〈住民基本台帳人口〉



世帯と人口の推移

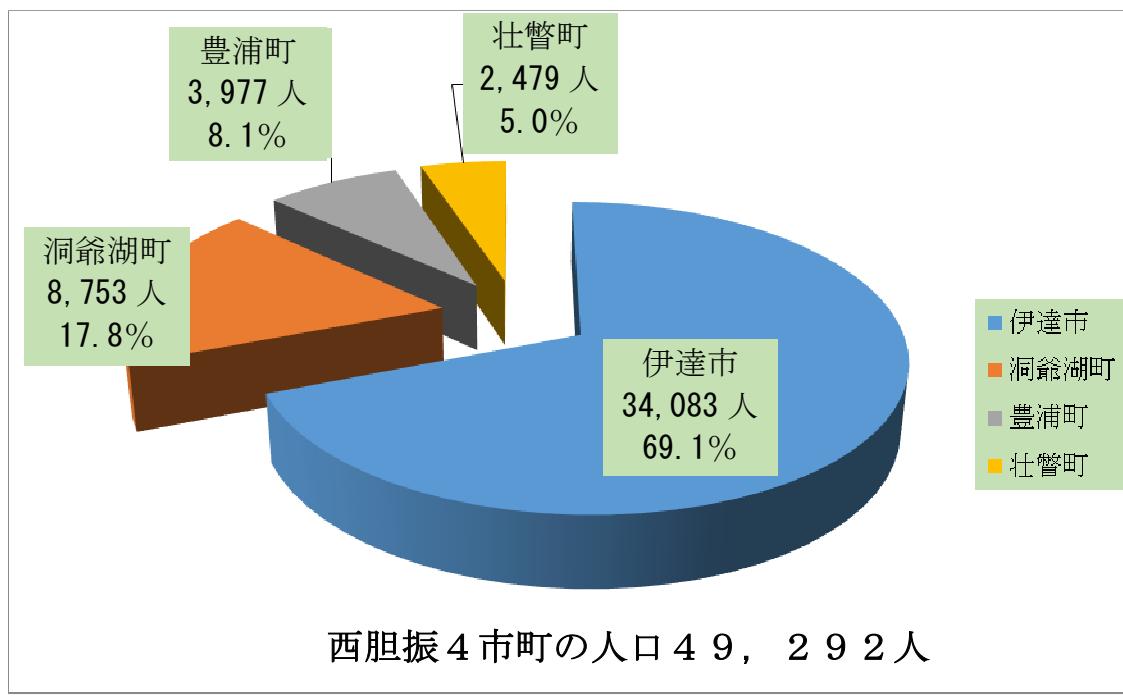
(単位:左縦軸/人口 右縦軸/世帯数)



〈国勢調査〉

※平成 17 年より前の数値には旧大滝村を含まず

西胆振4市町別人口(平成31(2019)年4月1日現在)



第2章 伊達市の産業

1. 就業構造

本市の産業別就業者数は、平成27(2015)年の国勢調査で見ると、第1次産業が1,655人(10.4%)、第2次産業が2,895人(18.1%)、第3次産業が11,421人(71.5%)となつており、全道と比較すると第1次産業の比率が高くなっています。

平成22年と比較し、産業別就業者の割合に大きな変動はありません。

産業別就業者数 (単位:人(%))

区分		平成17(2005)年	平成22(2010)年	平成27(2015)年
就業者数	伊達市計	16,589 (100.0)	15,628 (100.0)	15,971 (100.0)
	伊達地域	15,838 (100.0)	15,047 (100.0)	15,452 (100.0)
	大滝区	751 (100.0)	581 (100.0)	519 (100.0)
	全道	2,553,400 (100.0)	2,372,293 (100.0)	2,300,158 (100.0)
第1次産業	伊達市計	1,797 (10.8)	1,651 (10.6)	1,655 (10.4)
	伊達地域	1,687 (10.6)	1,540 (10.2)	1,560 (10.1)
	大滝区	110 (14.6)	111 (19.1)	95 (18.3)
	全道	200,822 (7.9)	181,531 (7.7)	170,336 (7.4)
第2次産業	伊達市計	3,038 (18.3)	2,963 (18.9)	2,895 (18.1)
	伊達地域	2,988 (18.9)	2,934 (19.5)	2,866 (18.5)
	大滝区	50 (6.7)	29 (5.0)	29 (5.6)
	全道	495,496 (19.4)	429,376 (18.1)	411,569 (17.9)
第3次産業	伊達市計	11,754 (70.9)	11,014 (70.5)	11,421 (71.5)
	伊達地域	11,168 (70.5)	10,573 (70.3)	11,026 (71.4)
	大滝区	91 (78.7)	441 (75.9)	395 (76.1)
	全道	1,857,082 (72.7)	1,761,386 (74.2)	1,718,253 (74.7)

〈国勢調査〉

2. 産業

本市では市内で産出される豊かな食資源を産業間連携に活かし、地域全体の振興に結び付けるための「伊達ウェルシーフード構想」に基づき、農業・酪農畜産業、水産業に携わる生産者、「食」に関わる加工業者・小売業者・飲食業者と一体となり、地域ブランドの確立や地産地消の推進など「食」に関わる取り組みの検証を行いながら「食を通じたまちおこし」を推進しています。



(1) 農林業

【農業】

■ 本市の農業は、明治初期の開拓以来、先進諸国の知識、技術の先駆的導入によって寒地農業の確立を図り、模範農業として本道初期開拓の進展に大きく貢献しました。こうした開拓 150 年余の歴史を背景に、恵まれた気象条件、土壤条件、地理的条件を生かして都市近郊型農業を確立し、野菜を中心に畑作、水稻、酪農、花きなど多角的な複合経営を展開しています。

■ 伊達地域においては温暖な気候のもと多種多品目の野菜が生産されており、「伊達野菜」の名でブランド化が図られています。その中でもキャベツやブロッコリーなど、道内有数の生産量を誇る野菜を札幌などの主要市場へ出荷しています。平成 23 (2011) 年度には、東日本大震災で被災した姉妹都市宮城県亘理町のいちご生産者を受け入れ、その高い生産技術を地域農業者へ伝承し、当市を代表する農産物として产地化が図られるよう研修生の受入等を実施しています。

また、当市の温暖な気候を生かした冬期ハウス栽培による「冬野菜」の产地化を図るべく、冬野菜产地化事業を実施しているほか、高糖度トマトや越冬たまねぎなど農業者が主体となった生産技術向上及び产地化に向けた取り組みを行うことで、他产地との差別化や優位性を確立し販売戦略の構築を図るほか、農産物生産の基礎となる土づくりにおいても、伊達市堆肥センターが製造する堆肥を販売し土壤改良を促進するとともに、関係機関と連携した土壤分析及び施肥設計を行う取り組みを実施しています。

さらに、ワイン产地としての地域ブランドの創出を目指し、醸造用ぶどう苗の試験栽培も行っています。

現在、当地域のうち長和及び閑内地区においては、国営緊急農地再編整備事業の地区調査を実施しており、当該事業を契機とした農産物生産の効率化や農地の集積化、コンタクター及び農業経営体の法人化推進なども視野に入れ、事業実施に向けた取り組みを行っています。

■ 大滝区においては山岳丘陵地の畜産と狭小な平坦地における根菜類等の寒冷地作物の栽培が中心となっています。全般的に山岳の丘陵地帯であるため大規模機械化農業を推進するには制約が大きいことから、販売農家一戸あたりの耕地面積は全道平均 21.5ha の 50%程度と狭く、安定した農業経営を図るために付加価値の高い作物の選定や地力向上のための生産基盤整備を進める必要があり、平成 24 (2012) 年度においては長芋選果機の更新を行い円滑な出荷体制の整備を行っているところです。

一方、農業を支える担い手の減少と高齢化が進んでいることから、重量作物から軽量作物への転換のひとつとして、アロニア（小果実）の栽培に取り組んでおり、JAとうや湖において選果出荷がされています。

農業の推移

区分	農家数				耕地面積	田	畑	粗生産額
		専業	兼業	自給的農家				
平成 17(2005)年	608 戸	280 戸	238 戸	90 戸	3,919ha	431ha	3,476ha	9,270 百万円
平成 22(2010)年	537 戸	235 戸	211 戸	91 戸	4,125ha	348ha	3,758ha	—
平成 27(2015)年	475 戸	250 戸	152 戸	73 戸	3,804ha	342ha	3,462ha	—

〈世界農林業センサス、農林水産統計年報〉

主な種類別作付面積

作付面積(ha)	水稻	小麦	馬鈴薯	小豆	てんさい	キャベツ
平成 17(2005)年	234ha	429ha	112ha	125ha	311ha	190ha
平成 22(2010)年	231ha	364ha	94ha	127ha	—	—
平成 27(2015)年	210ha	210ha	83ha	145ha	321ha	142ha

〈世界農林業センサス 含む旧大滝村〉

家畜飼養規模数と頭数

*()の数字は実戸・頭数に含む大滝区の数を示す。

(単位:頭数)

*上段が実戸数、下段が頭数を示す。

区分	10頭以下	11~20頭	21~30頭	31~40頭	41~50頭	51~100頭	101~300頭	300頭以上	合計
乳牛	—	1 法人	1 戸 (1 戸)	4 戸	1 戸	13 戸 (2 戸)	5 戸 1 法人	—	24 戸 2 法人 (3 戸)
	—	11	25 (25)	143	50	982 (104)	873	—	2,084 (129)
肉牛	8 戸 (1 戸)	7 戸 (3 戸)	5 戸 (1 戸)	6 戸	1 戸	5 戸	3 戸	—	35 戸 (5 戸)
	40 (1)	111 (46)	136 (29)	220	49	350	400	—	1,306 (76)
豚	—	—	—	—	—	—	—	3 法人 (1 法人)	3 法人 (1 法人)
	—	—	—	—	—	—	—	7,694 (2,000)	7,694 (2,000)
馬	8 戸 1 法人 (1 法人)	1 戸	—	—	1 法人	—	—	—	9 戸 2 法人 (1 法人)
	17 (2)	12	—	—	50	—	—	—	79 (2)

区分		1 万羽以下	1 万羽~10 万羽	10 万羽以上	合計
鶏	採卵鶏	9 戸 2 法人(3 戸)	2 法人	—	9 戸 4 法人(3 戸)
		1, 337 (28)	185, 490	—	186, 827 (28)
プロイナー		2 戸	—	1 法人	2 戸 1 法人
		6	—	1, 279, 763	1, 279, 769

〈平成 31 年 (2019) 年 2 月 1 日現在 農務課家畜飼養状況調査〉

【林業】

- 伊達市森林整備計画内の森林は約 13,659ha あり、そのうち 4,104ha が人工林、8,658ha が天然林、897ha が天然性萌芽林となっています。樹種として人工林ではカラマツ、トドマツ、アカエゾマツ、シラカンバ等が多く育っており、天然林はハンノキ、ミズナラ、シラカンバ、ケヤキなどの広葉樹が多い森林となっています。
- 近年、就業者の減少・高齢化などにより林業・木材経営は厳しい環境におかれていることから、間伐で不要となった木材（カラマツ）を原料とし、地球にやさしい環境づくりを目的とした木質ペレットの生産を行い、雇用創出、販路拡大のための取り組みを推進しています。平成 31(2019)年 3 月末時点では、ペレットボイラーが約 70 台、ペレットストーブが個人住宅や公共施設等に約 100 台設置されており、伊達市以外でもその利用がなされています。

ペレット生産・出荷量

(単位: t)

区分	生産量	出荷量			
			公共施設	一般(事業所含)	農業用
平成 24(2012)年度	1,402	1,242	299	757	186
平成 25(2013)年度	1,234	1,304	356	797	151
平成 26(2014)年度	1,503	1,522	271	1,135	116
平成 27(2015)年度	1,429	1,323	278	951	94
平成 28(2016)年度	1,110	1,172	261	852	59
平成 29(2017)年度	1,084	1,092	227	810	55
平成 30(2018)年度	1,105	1,006	217	742	47

〈水産林務課〉



(2) 水産業

- 本市の水産業は、噴火湾養殖漁業の要所にあり、ホタテ貝などの貝類を中心とした養殖漁業で発展してきました。また、サケの増殖事業ではふ化放流技術向上のため、黄金・関内地区に伊達さけ・ますふ化場を設置し、サケの安定的な回帰を図っています。
- 育てる漁業を推進するため、北海道栽培漁業伊達センターが完成し、平成 18(2006)年度より、えりも町から函館市にかけての海域で 100 万尾のマツカワ※の種苗が放流されています。（※マツカワはホシカレイ、ヒラメと並ぶ高級魚でカレイ類の中で最高に美味と絶賛する人もいるほどです。その自身は主に刺身や寿司だねに使われます。）
- 本市には、いぶり噴火湾漁業協同組合の伊達支所、有珠支所があり、伊達市街沿岸の伊達漁港・黄金漁港及び恵まれた入江となっている有珠湾をそれぞれ核として前浜漁業が営まれています。

水産業の推移

区分	漁家数(戸)	従業員数(人)	動力漁船数(隻)	漁獲高数(t)	水揚げ高(百万円)
平成23(2011)年	94	194	235	4,660	1,048
平成24(2012)年	92	188	217	5,266	1,047
平成25(2013)年	96	184	208	4,971	1,131
平成26(2014)年	89	168	202	6,030	1,613
平成27(2015)年	89	178	187	5,745	1,910
平成28(2016)年	89	160	170	4,641	1,684
平成29(2017)年	91	154	164	4,314	1,639

〈水産林務課〉

平成29(2017)年内訳(漁獲高・水揚高)

区分	ホタテ	サケ	その他	合計
漁獲高数 t	3,587	471	356	4,314
水揚高 百万円	1,152	340	147	1,639

〈水産林務課〉



(3) 商 業

- 本市の商業は、胆振西部を商圈とし、購買力吸引型広域商業ゾーンとして発展しております。網代町、市役所通りを中心として鹿島町・大町・錦町、駅前に商店街が形成されています。しかし、近年は郊外への大型店進出等により古くからの商店街には空き店舗が目立っています。
- 国道沿いにはロードサイドショップとして自動車販売店、ガソリンスタンドや大型のスーパー・マーケットなどが立地していますが、近年はコンビニエンスストアや各種専門店の立地により、新たな商店街を形成しています。
- 中心市街地は、古くから商店や住宅が集積しており、いろいろな機能を培ってきた「街の顔」です。この「街の顔」の活性化のため、本市商工会議所・商店街・地域住民が協働で元気あふれるまちづくりを進めています。

商業の推移

区分	商店数(店)	従業員数(人)	商品販売額(千円)	1店当たり販売額(千円)
平成 2(1990)年	492	2,635	61,636,000	125,276
平成 5(1993)年	447	2,926	67,442,000	150,877
平成 8(1996)年	427	2,709	71,503,000	167,454
平成 10(1998)年	439	3,071	69,375,000	158,030
平成 13(2001)年	429	3,018	61,220,000	142,704
平成 15(2003)年	405	2,781	60,527,000	149,449
平成 18(2006)年	398	2,738	50,711,470	127,416
平成 23(2011)年	297	2,068	41,737,000	140,529
平成 25(2013)年	296	2,102	41,982,580	141,833
平成 27(2015)年	301	2,232	45,023,000	149,578

〈商業統計調査、経済センサス-活動調査〉

※「平成 21(2009)年商業統計調査」は、経済センサスの創設に伴い中止。

※ 平成 23(2011)年、平成 27(2015) 年は「経済センサス-活動調査」の数値。

(4) 工 業



- 本市では古くは明治初期から農村工業が盛んで、道央地区新産業都市の指定に伴って工業が活発化し、現在では地域で生産される農産物を加工する食料品工業を中心に発達してきているほか、コンクリート製品製造などが産業の重要な一翼を担っています。
- 2つの工業団地を有し、北海道縦貫自動車道伊達インターチェンジに隣接する松ヶ枝地区中小企業団地（分譲済み）及び現在分譲中の伊達長和工業団地（工業専用地域）があります。伊達長和工業団地付近には、北海道電力㈱伊達発電所があり、すでに数社の企業が立地操業しており、今後も引き続き企業誘致を進めています。また、有珠山噴火の際の避難道路として道道南黄金長和線（長和～館山下間）が平成 18(2006)年に整備されたことにより、国道からのアクセスの利便性が増し、企業立地が期待されています。

工業の推移

区分	事業所数 (事業所)	従業者数 (人)	工業出荷額等 (百万円)
平成 13(2001)年	37	925	13,730
平成 14(2002)年	36	887	14,180
平成 15(2003)年	41	929	14,750
平成 16(2004)年	33	856	16,419
平成 17(2005)年	32	825	17,101
平成 18(2006)年	30	580	14,541
平成 19(2007)年	34	653	15,807
平成 20(2008)年	33	658	16,786
平成 21(2009)年	33	665	16,732
平成 22(2010)年	32	643	16,419
平成 24(2012)年	31	627	14,443
平成 25(2013)年	32	630	15,298
平成 26(2014)年	30	613	15,333

〈工業統計調査、商工観光課〉

※数値は従業者 4 名以上の事業所

※「平成 23 年(2011)、平成 27 年(2015)年工業統計調査」は経済センサスのため休止。



(5) 観 光

■ 本市は、武士の集団移住により開拓され、北海道内でも固有の歴史を持つまちです。縄文遺跡も数多く出土され史跡に指定されている北黄金貝塚や蝦夷三官寺として北海道遺産に選定された有珠善光寺など歴史探勝地として注目されています。

また平成 31 年(2019 年)4 月にオープンした「だて歴史文化ミュージアム」は、武具甲冑類や美術工芸品、重要文化財の有珠モシリ遺跡出土品など縄文時代から現代までの地域の歴史などをわかりやすい解説とともに展示する施設として整備されました。

北海道内唯一の藍生産地ならではの藍染め体験ができる「藍工房」や刀匠渡辺惟平さんの刀剣製作が見学できる「刀鍛冶工房」が入る「体験学習館(旧黎明観)」と一体的な施設として生まれ変わりました。

- 武士による開拓の歴史と伝統を象徴する勇壮な騎馬武者による「伊達武者まつり(8月上旬)」をはじめとして、「だて農業・漁業・大物産まつり(10月上旬)」や道内各地の物産品を楽しめる「だて食のフェスティバル(9月下旬)」などのイベントが開催されています。また北海道の早春を飾るスポーツイベントとして、約4,000人のランナーが市内を駆け抜ける「春一番伊達ハーフマラソン大会(4月中旬)」は、道内屈指のマラソン大会に位置づけられています。
- 登別、洞爺の二大温泉地の間に位置していることから、いわゆる通過型観光地として発展してきましたが、近年は総合公園だて歴史の社の中核施設である道の駅「伊達市観光物産館」での地元の新鮮な「伊達野菜」の販売が好調で年間来場者数約140万人を誇る道内屈指の人気スポットとなっております。
- 洞爺カルデラや有珠山などに代表される地質遺産や雄大な自然遺産、さらに縄文遺跡などの歴史遺産からなる「洞爺湖有珠山ジオパーク」が、平成21(2009)年8月に世界ジオパークに登録されました。博物館、自然観察路、ガイド付きツアーなどにより、地球科学や環境問題に関する教育・普及活動を行っています。

【大滝区】

- 支笏洞爺国立公園の中心部に位置する大滝区は、道央圏と道南圏の観光エリアを結びつける好地域性を有しており、湯量豊富な「北湯沢温泉郷」を中心、「ホロホロ山自然休養林」、「景勝三階滝公園」などを擁し、札幌市、千歳市、室蘭市などの道内主要都市と胆振、石狩、後志各振興局にまたがる観光圏域となっています。
また、北湯沢温泉郷には大小の温泉宿が軒を連ね、観光客の受け入れ体制も整っています。
- 大滝区の変化に富んだ丘陵や森は絶好のクロスカントリーコースになることから、国内外から愛好者が参加する「おおたき国際スキーマラソン(2月上旬)」や、フィンランド生まれでポール(ストック)を使って丘陵地や山、平坦なコースを歩く「おおたき国際ノルディックウォーキング(7月上旬)」などが開催されています。

平成 30 年度（2018）期別観光客入込数 (単位：千人)

区分		H27 計	H28 計	H29 計	H30 計	4～6 月	7～9 月	10～12 月	1～3 月
伊達市計	入込総数	1,816.5	1,801.4	1,810.7	1,727.3	476.4	514.7	444.1	292.1
	道外客	70.5	71.7	72.3	68.1	14.2	25.3	16.3	12.3
	道内客	1,746	1,729.7	1,738.4	1,659.2	462.2	489.4	427.8	279.8
	日帰客	1,576.1	1,354.8	1,588	1,479.3	425.7	446.2	383.6	223.8
	宿泊客	240.4	272.7	222.7	248.0	50.7	68.5	60.5	68.3
うち 大滝区	入込総数	726	767.2	760	767.9	152.4	139.3	255.8	220.4
	道外客	34.6	37.8	38.4	36.7	7.7	5.1	12.9	11.0
	道内客	691.4	729.4	721.6	731.2	144.7	134.2	242.9	209.4
	日帰客	519.3	562.7	564.9	558.7	110.0	80.9	204.3	162.5
	宿泊客	206.7	205.1	195.1	209.2	41.4	58.4	51.5	57.9

〈商工観光課〉

有珠海水浴場利用状況

区分	平成 27(2015)年度	平成 28(2016)年度	平成 29(2017)年度	平成 30(2018)年度
開設期間	7/6～8/23	7/3～8/21	7/9～8/20	7/8～8/19
開設日数 (日)	50	50	43	43
入り込み数 (人)	6,013	4,893	3,420	5,256
中央海水浴場 (人)	5,603	4,893	3,067	4,550
キャンプ場 (人)	133	178	137	175
海浜利用者 (人)	277	337	216	531

〈商工観光課〉

主要イベント入込数

(単位：人)

主要イベント名称	平成 27(2015)年度	平成 28(2016)年度	平成 29(2017)年度	平成 30(2018)年度
春一番伊達ハーフマラソン 大会 (参加者数) (4 月)	4,170	4,061	3,965	3,603
有珠磯まつり (7 月)	35,000	22,000	32,000	休止中
伊達武者まつり (8 月)	41,000	41,000	41,000	33,000
だて農業・漁業・大物産 まつり (10 月)	24,000	28,000	20,000	荒天により中止

〈商工観光課〉

主要観光施設入込数

(単位：人)

主要観光施設名称	平成27(2015)年度	平成28(2016)年度	平成29(2017)年度	平成30(2018)年度
北黄金貝塚公園	12,888	12,888	12,177	12,641
開拓記念館	6,030	6,274	4,709	—
宮尾登美子文学記念館	5,302	3,825	3,049	2,721
黎明観	35,444	25,509	16,693	16,220
有珠海水浴場	5,603	4,378	3,420	9,846
有珠善光寺自然公園	14,171	10,711	11,782	9,846
伊達市観光物産館	1,380,525	1,407,516	1,406,368	1,406,711

〈商工観光課〉

※開拓記念館はリニューアルに向け平成29年11月末をもって閉鎖

第3章 その他の

1. 道路の現況

区分	実延長	改良済		舗装率	
		延長	改良率	延長	舗装率
国 道	56.3km	56.3km	100.0%	56.3km	100.0%
道 道	43.9km	40.0km	91.1%	39.7km	90.4%
市 道	562.7km	344.6km	61.2%	317.1km	56.4%

〈平成 31(2019)年 4月 1日現在 建設課〉

※国道－3 路線、道道－11 路線

※市道には独立専用自転車歩行者道は含まない。

※市道の延長は道路現況〈総括〉台帳より抜粋

2. 上下水道の普及率

	普及率
上水道(伊達地域)	88.3%
簡易水道(大滝区)	82.7%
下水道	87.6%

〈平成 31(2019)年 4月 1日現在 水道課、地域振興課、下水道課〉

3. 姉妹都市等の提携状況

	自治体名	締結年月
姉妹都市	宮城県亘理町	昭和 56(1981)年 4月
	福島県新地町	昭和 57(1982)年 7月
	宮城県山元町	昭和 63(1988)年 4月
	カナダ 国ブリティッシュコロンビア州 レイク・カウチン町	平成元(1989)年 10月
歴史友好都市	宮城県柴田町	昭和 63(1988)年 5月
経済交流都市	大阪府枚方市	平成 11(1999)年 7月
友好都市	中華人民共和国 福建省 漳州市	平成 22(2010)年 4月

中華人民共和国 福建省漳州市について

■ 伊達市は平成 22(2010)年 4 月 7 日中華人民共和国福建省漳州市との友好都市締結議定書に調印しました。平成 17(2005)年 6 月、日本と中国の友好を深めることを目的に、市民有志が「伊達日本中国友好協会」を設立し取り組んだ交流活動をきっかけとして、以降毎年、中国訪問団による漳州市訪問または漳州市が来市をするなどの市民レベルでの交流を行ってきました。

漳州市は中国沿海地方の台湾の対岸に位置し、中国では中都市の部類に属する都市で温暖な気候の中で果物栽培や農産物、花の生産が盛んです。

また、港を 2 つ持ち、水産品生産や加工業も発達しており、雇用状況や食料事情が安定していることから貧富の差も少なく、消費活動も盛んで中国の中でも経済的に豊かな都市と言われています。

さらに、漳州市は華僑の主な出身地となっており、100 万人以上にのぼる海外華僑や華人が多くの地域や国で活動しています。

D A T A 中華人民共和国 福建省 漳州市

□人口	約 497 万人（うち市区人口は 34 万人）
□面積	約 12,600 km ²
□気候	年平均気温 約 21℃ 年間雨量 約 1,580 mm
□特産物	果物/ミカン・バナナ・スターフルーツ・マンゴー・ライチ 海鮮/エビ・アワビ・ホタテ・カキ・イカ 植物/水仙・椿・蘭
□日本での友好都市	長崎県諫早市
□経済発展の状況	昭和 60(1985)年に对外解放地区として認可、現在国家級・省級の開発区が 15 に達し、世界 170 カ国や地域との経済貿易を展開

4. 市内指定文化財一覧

指定区分	指定種類	名称	所在地	所有者	指定年月日
国	重文	旧三戸部家住宅	梅本町 61-2	伊達市	S46(1971). 12. 28
国	史跡	善光寺跡	有珠町 124	善光寺	S49(1974). 5. 23
国	史跡	北黄金貝塚	北黄金町 75-1	伊達市	S62(1987). 12. 25
国	重文	北海道有珠モシリ遺跡出土品	梅本町 61-2	国・伊達市	H16(2004). 6. 8
国	重文	蝦夷三官寺善光寺関係資料	有珠町 124	善光寺	H17(2005). 6. 9
道	有文	釈迦如来立像	有珠町 124	善光寺	S34(1959). 2. 24
道	有文	円空作聖観音像	有珠町 124	善光寺	S52(1977). 3. 11
市	有文	土蔵倉	鹿島町 6	浅見圭一	S62(1987). 3. 27
市	有文	迎賓館	梅本町 61-2	伊達市	H4(1992). 9. 28
市	有文	旧伊達家蔵	梅本町 61-2	伊達市	H4(1992). 9. 28
市	有文	バチラー夫妻記念教会堂	向有珠町 119	日本聖公会北海道教区	H4(1992). 9. 28
市	有文	旧もんべつ製糖所製糖機械	館山下町 1	北海道糖業(株)道南製糖所	H16(2004). 4. 23
市	有文	亘理伊達家指小旗	鹿島町 20-1	伊達市	H24(2012). 9. 28
市	無民文	仙台神楽	東閑内町 78	伊達市仙台神楽保存会	S46(1971). 8. 27
市	無民文	柳心介胄流	末永町 7	柳心介胄流保存会	S59(1984). 3. 10
市	無民文	さんさ時雨	弄月町 211	伊達市さんさ時雨保存会	H20(2008). 6. 27
市	史跡	伊達市開拓記念館庭園	梅本町 61-2	伊達市	S48(1973). 12. 27
市	史跡	鍬入れの碑	梅本町 37	伊達市	S48(1973). 12. 27
市	史跡	館山チャシ	館山町 7	伊達市	S48(1973). 12. 27
市	史跡	バッタ塚	松ヶ枝町 217	伊達市	S48(1973). 12. 27
市	史跡	有珠会所跡	有珠町 86	伊達市	S48(1973). 12. 27
市	史跡	創治記念碑	梅本町 44	伊達市	S56(1981). 3. 11
市	史跡	ポンチャシ	向有珠町 163-2	伊達市	S62(1987). 3. 27
市	史跡	茶飲み場遺跡	北黄金町 75-103	伊達市	H9(1997). 4. 25
市	史跡	北黄金 3 遺跡	北黄金町 75 内	伊達市他	H9(1997). 4. 25
市	史跡	有珠 6 遺跡	有珠町 274-1 内	渡邊源之	H19(2007). 6. 22

〈生涯学習課〉

※重文—重要文化財 有文—有形文化財 無民文—無形民俗文化財
※記念物は除く。

5. 市内の主な公共施設一覧

名称	所在地	電話番号
【市の施設等】		
市民活動センター	鹿島町 20-1	25-6503
カルチャーセンター「あけぼの」	松ヶ枝町 34-1	22-1515
伊達市噴火湾文化研究所	館山町 21-5	21-5050
伊達市アートビレッジ文化館	館山町 21-5	21-5050
だて歴史の杜食育センター	梅本町 71-8	23-4019
図書館	梅本町 67-5	25-3336
北黄金貝塚情報センター	北黄金町 75	24-2122
伊達市観光物産館	松ヶ枝町 34-1	25-5567
だて歴史文化ミュージアム	梅本町 57-1	25-1056
大滝基幹集落センター	大滝区本郷町 84-1	68-9333
【体育・スポーツ施設等】		
伊達市総合体育館「あかつき」	松ヶ枝町 34-1	23-8600
伊達市総合体育館温水プール・トレーニング室	松ヶ枝町 34-1	25-8300
伊達市武道館	末永町 39-8	23-8600
伊達市館山野球場	館山町 29-1	23-8600
まなびの里パークゴルフ場	南有珠町 141-2	38-2151
まなびの里サッカー場	東有珠町 76-1	23-3331
伊達市閑内パークゴルフ場	東閑内町 17	23-8600
大滝自然ふれあい交流施設(パークゴルフ場)	大滝区本町 43-1	68-6282
優徳農村公園スポーツ広場	大滝区優徳町 113-1	68-5566
大滝歩くスキーコース	大滝区大成町 1	68-5566
【集会・研修施設】		
東地区コミュニティセンター(みらい館)	弄月町 241-4	22-2888
有珠地区コミュニティセンター(白鳥館)	有珠町 41-2	38-3270
黄金地区コミュニティセンター(はまなす館)	北黄金町 65	24-2111
長和地区コミュニティセンター(ふれあい館)	長和町 477-16	22-8700
優徳コミュニティセンター(ふるさと館)	大滝区優徳町 87-2	68-6111

6. 伊達市のあゆみ

明治 2(1869)年 8 月	伊達邦成、明治政府より有珠郡支配を命ぜられる
3(1870)年 4 月	第 1 回移住(255 人)
33(1900)年 7 月	1 級市町村制施行により伊達村と改称
大正 2(1913)年 1 月	市街地に電話開通
14(1925)年 8 月	町制施行(伊達町)
昭和 39(1964)年 4 月	新産業都市に指定
39(1964)年 7 月	伊達市体育館開設
42(1967)年 10 月	都市計画用途地域指定
44(1969)年 1 月	伊達・壮瞥学校給食組合給食開始
44(1969)年 8 月	開基 100 年
45(1970)年 12 月	市街地区域、市街地調整区域決定
47(1972)年 4 月	市政施行(伊達市)
48(1973)年 8 月	第 1 回伊達武者まつり
51(1976)年 4 月	新庁舎完成
52(1977)年 8 月	有珠山噴火(7 日午前 9 時 12 分)災害救助法適用
53(1978)年 4 月	市の木「エゾヤマザクラ」市の花「ツツジ」制定
56(1981)年 4 月	伊達市亘理町ふるさと姉妹都市締結調印式
57(1982)年 7 月	伊達市新地町ふるさと姉妹都市締結調印式
60(1985)年 10 月	公共下水道供用開始
61(1986)年 10 月	国鉄胆振線廃止
63(1988)年 4 月	伊達市山元町ふるさと姉妹都市締結調印式
63(1988)年 5 月	伊達市柴田町歴史友好都市締結調印式
平成元(1989)年 7 月	ゴミ処理手数料有料化開始
元(1989)年 10 月	大滝村(当時)カナダ、ブリティッシュコロンビア州、レイク・カウチン町姉妹都市締結調印式
3(1991)年 4 月	保健センター、武道館オープン
4(1992)年 10 月	北海道縦貫自動車道伊達～室蘭間開通
5(1993)年 4 月	道道伊達洞爺線の国道昇格(国道 453 号)
6(1994)年 3 月	北海道縦貫自動車道伊達～虻田洞爺湖間開通

平成 6(1994)年 7 月	伊達街道一工区、市役所通り商店街近代化事業完成
6(1994)年 10 月	伊達市史発刊
6(1994)年 12 月	だて歴史の杜カルチャーセンターが落成
8(1996)年 3 月	道道上長和萩原線(西関内～上長和間)開通
8(1996)年 4 月	道の駅「フォーレスト 276 大滝」オープン
8(1996)年 8 月	住民参加モデル事業「まれふふれあい公園」完成
9(1997)年 4 月	東地区コミュニティセンターオープン
10(1998)年 3 月	伊達街道二工区、網代町商店街近代化事業完成
10(1998)年 8 月	伊達西小学校新校舎完成
11(1999)年 4 月	有珠地区コミュニティセンターオープン、黎明観オープン
11(1999)年 7 月	大滝村(当時)大阪府枚方市経済交流都市締結調印式
12(2000)年 3 月	有珠山噴火(31 日午後 1 時 7 分)、災害救助法適用 (29 日)
12(2000)年 8 月	道の駅「だて歴史の杜」オープン
13(2001)年 6 月	国指定史跡「北黄金貝塚公園」開園
13(2001)年 10 月	伊達市子育て支援センター「えがお」オープン
14(2002)年 10 月	ふれあい福祉センターオープン
15(2003)年 10 月	伊達市・壮瞥町・大滝村合併協議会設置
15(2003)年 10 月	第 57 回日本人類学会、民俗学会開催
15(2003)年 11 月	伊達市消防・防災センターオープン
16(2004)年 4 月	黄金地区コミュニティセンターオープン
16(2004)年 4 月	伊達市堆肥センター本格稼働開始
16(2004)年 6 月	伊達ウェルシーランド構想の実践組織「豊かなまち創出会議」設立
16(2004)年 12 月	合併協議から壮瞥町が離脱 伊達市・大滝村合併協議会設置
17(2005)年 2 月	大滝村との合併協定書に調印
17(2005)年 3 月	北海道知事へ廃置分合(合併)申請書を提出
17(2005)年 4 月	噴火湾文化研究所設置 宮尾登美子文学記念館オープン
17(2005)年 11 月	北海道栽培漁業伊達センター完成
18(2006)年 3 月	大滝村と合併、新「伊達市」誕生(平成 18 年 2 月 大滝村閉村) 道道南黄金長和線(長和～館山下間)開通

平成 18(2006)年 4 月	星の丘小中学校開校
19(2007)年 4 月	長和地区コミュニティセンターオープン
20(2008)年 4 月	優良田園住宅「田園せきない」造成地完成
20(2008)年 7 月	北海道洞爺湖サミット開催 カナダ、S. ハーパー首相が「子ども環境サミット」出席のため来伊
20(2008)年 12 月	来伊した S. ハーパー首相の名を冠した「ハーパーホール」記念プレート贈呈式開催
21(2009)年 5 月	道の駅だて歴史の杜黎明観前交流広場にて、伊達軽トラ日曜朝市を開催
22(2010)年 3 月	有珠中学校・長和中学校が閉校し、光陵中学校へ統合
22(2010)年 4 月	中華人民共和国福建省漳州市友好都市締結調印式
22(2010)年 10 月	地域活性化シンポジウム開催
23(2011)年 6 月	北海道電力㈱伊達発電所構内に伊達ソーラー発電所が完成し、営業運転開始
23(2011)年 11 月	南黄金町に風力発電施設「伊達ウインドファーム」が完成し、営業運転開始
24(2012)年 1 月	伊達市が「次世代エネルギーパーク」に認定
24(2012)年 4 月	総合公園「だて歴史の杜」内に伊達市総合体育館、伊達市観光物産館がオープン
24(2012)年 6 月	南有珠町に「まなびの里パークゴルフ場」がオープン
25(2013)年 3 月	東有珠町に「まなびの里サッカー場」がオープン
26(2014)年 4 月	総合公園「だて歴史の杜」内に伊達市温水プール・トレーニング室」がオープン
27(2015)年 4 月	館山町に「伊達市アートビレッジ文化館」がオープン
27(2015)年 4 月	「伊達市観光物産館」内に1市3町のコミュニティFM放送局『wi-radio (ワイラジオ)』が開局
28(2016)年 4 月	旧市体育館跡地に「市民活動センター」がオープン
29(2017)年 3 月	達南中学校が閉校し、伊達中学校へ統合
30(2018)年 1 月	だて歴史の杜食育センター 供用開始
31(2019)年 4 月	だて歴史文化ミュージアムがオープン

伊達市の新施設の概要

「だて歴史文化ミュージアム」は、平成 31 年 4 月 3 日（水曜日）午前 10 時にオープンしました。この建物は、縄文時代から現代までの地域の歴史などについてわかりやすい解説とともに、文化財や美術品の展示・芸術の振興を一体化した博物館となっています。本館の 1 階部分には、ワークショップや講演会などを行う「ラーニング・スタジオ」と、歴史などに関する調べものを行う「ライブラリー・コモンズ」を配置します。2 階には展示室を配置し、伊達市の歴史・文化・自然を紹介します。

体験学習館には、北海道内唯一の藍生産地ならではの藍染め体験ができる「藍工房」や刀匠渡辺惟平さんの刀剣製作が見学できる「刀鍛冶工房」があります。



第4章 まちづくりの基本構想

本市は平成18(2006)年3月に大滝村との合併により新伊達市として新たなスタートを切り、平成21(2009)年度～平成30(2018)年度を計画期間とする「第六次伊達市総合計画」を策定し、まちづくりを進めてきました。

この「第六次伊達市総合計画」の計画期間満了に合わせ策定した「第7次伊達市総合計画」では、10年間で大きく変化している社会情勢を踏まえ、令和元(2019)年度から10年間のまちづくりの方針を定めています。

厳しい社会情勢の中であっても、活力を失わずに、希望が持てるまちづくりを推進するため、「健やか・安心」、「育み」、「活躍」の3つのキーワードからなる重点施策を掲げ、これらの施策を集中的、横断的に取り組むことで、限られた地域資源、人的資源や財源を有効に活用し、将来においても持続可能なまちをめざしています。

1. 将来像

まちづくりの方針を定めるにあたって、多くの方の様々な視点を取り入れるため、ワークショップなどの市民参加をこれまで以上に活用し幅広い世代の方に参加していただきました。そうした中で見えてきた市民意識や伊達市の現況、社会潮流等を踏まえ、導き出した今後のまちづくりの方向性は次のようになりました。

- ① 経済・産業の発展と雇用の拡大により、暮らしの安定と活力のあるまちをつくる。
- ② 心が通うコミュニティと医療・福祉の充実により、誰にでもやさしいまちをつくる。
- ③ 安心・安全・快適な環境の創出により、いつまでも住んでいたいまちをつくる。
- ④ 文化的風土に育まれ、市民が未来に向けて挑戦し、活躍するまちをつくる。
- ⑤ 市民・企業・周辺地域と連携し、持続的なまちをつくる。

これらの方向性をもとに、伊達市の将来像を次のように定めます。

<将来像>

みんなが豊かさを感じられる 市民幸福度最高のまち

*将来像に込めた想い

快適な環境の中、心身ともに健康で、人とふれあい、助け合いながら、安定した生活を送ること。それが伊達市民にとっての「豊かさ」です。

市民がこうした豊かさを感じることができ、幸福度が高いまちになれば、人はこのまちに住み続け、ここに人が集まり、交流が生まれ、移住や投資が起こります。

その繰り返しによって、従来からここに暮らす市民も、新たに市民となった人も、すべての人が幸せに暮らせる、そんな伊達市を目指します。

2. 施策の体系

* 重点施策と分野別施策

将来像の実現に向けて、施策の体系を「重点施策」と「分野別施策」によって示します。

1. 重点施策

「重点施策」は、将来像の実現にむけて、限られた財政資源や人的資源を効率的・効果的に活用して重点的・優先的に推進する戦略的・横断的政策として掲げるものです。

2. 分野別施策

「分野別施策」は、全ての行政課題を分野別に分類して、まちづくりに取り組むための政策全般を体系化したものです。

重点施策と分野別施策は全く異なる内容のものではなく、重点施策は重点的・優先的に推進すべき分野別政策を横断的に組み込んだものです。

* 3つの重点施策

重点施策は分野別施策の中から重点的・優先的に推進するものを絞り込んだものであり、市民アンケート調査やワークショップ、パブリックコメントなど市民参加の取組に基づき市民意識の分析を行い、伊達市としての政策判断を加えたものを、絞り込みの根拠としています。

① 「健やか・安心」

- ・市民が健やかに暮らせるよう、関連する取組を重点的に推進します。
- ・健康の源である「食」を生み出す農業・漁業を振興し、健康産業としての発展を促します。
- ・食育や市民の健康づくりを促進し、健康寿命の延伸を図ります。
- ・心の通った人と人とのつながりをつくるとともに、防災対策に力を入れ、安心して暮らせるまちをつくります。

② 「育み」

- ・困難な時代の到来が予想される中、伊達市の未来を担う人材を地域が一丸となって育みます。
- ・学校、家庭、職場、コミュニティなど、あらゆる場を通じて、優れた見識、技能、問題解決力を持った頼もしい「伊達人（だてびと）」を育成します。
- ・伊達市で子どもを産み、育てようとする人を支援するとともに、子育て環境の充実を図ります。

③ 「生きがい」

- ・まちづくりを「自分ごと」とし、市民力が發揮される環境をつくります。

- ・ あらゆる年代、性別、境遇の人たちが、それぞれの立場で活躍し、魅力ある伊達市、住みやすい伊達市、活力があり人にやさしい伊達市をつくるために努力する体制を整えます。
- ・ 市内で雇用を創出し、伊達市に住み、活躍したい人が働ける場をつくります。

*分野別施策

分野別施策においても、重点施策における3つのキーワードに準じ、より体系的・網羅的に次の5つの基本目標を掲げます。

○基本目標1 「稼ぐ力と雇用を生み出すまちづくり」

- ・ 稼ぐ力が強く、安定した産業基盤の確立と雇用の創出を図ります。
- ・ ブランド力の高い農業と漁業、環境にやさしい林業を振興するほか、消費者ニーズに合った商業や地場産業の振興を図ります。
- ・ 若者・女性・高齢者など、多様な働き手が活躍できる雇用の創出と職場環境の改善を促進します。

○基本目標2 「豊かな心と人を育むまちづくり」

- ・ 次代を担う人づくりを地域全体で進めます。
- ・ 学校教育の充実を図り、豊かな心を持ち、問題解決力に優れた人材を育成します。地域全体で子どもの健やかな成長を見守り、育む体制を確立します。
- ・ 市民の学びを支援し、伊達市らしい歴史、文化、芸術、スポーツなどの活動を振興します。

○基本目標3 「健やかで人にやさしいまちづくり」

- ・ 健やかに、安心して暮らすことができるまちづくりを進めます。
- ・ 食育を推進するとともに健康の増進を図り、健康寿命の延伸に取り組みます。
- ・ 多様な境遇の人へのきめ細やかな福祉体制を構築し、安心して生活できる環境を整備します。

○基本目標4 「安心・安全で住み良いまちづくり」

- ・ 災害に強く、安心・安全が確保され、便利で快適な都市環境を整備します。
- ・ 人口規模に合わせてまちの整理・整頓を図りながら、効率的な整備や維持管理に努めます。
- ・ 防災意識を高めつつ、災害に強いインフラ整備や防災体制を強化するとともに、消防・救急体制の整備を図り、安心・安全の確保を進めます。

○基本目標5 「市民力を生かしたまちづくり」

- ・ まちづくりを「自分ごと」と捉え、課題の解決にチャレンジする市民、団体、企業、行政が手を取り合い、幸福度の高いまちをつくります。
- ・ 的確な情報発信に努め、市民の自発的な活動やコミュニティの活性化を支援します。
- ・ 行財政の効率化を図り、持続可能なまちの基盤を維持します。

●伊達市市民憲章

平成18年3月1日

わたしたちは、
先人の築いた遺産と伝統を受け継ぎ、
悠久の大地と自然の中で、
たゆみなく歩みつづける伊達市民です。
ここに、市民であることに誇りと責任を持ち、
互いの幸せと限りない発展を願い、
市民憲章を定めます。

- 1 自然を大切にし、よりよい環境のまちにします。
- 1 歴史と文化に学び、誇りの持てるまちにします。
- 1 きまりを守り、たがいに助け合うまちにします。
- 1 若い人を育て、夢と希望のあふれるまちにします。
- 1 人々との交流を深め、未来にはばたくまちにします。

◆解説

[前文]

前段部分は、伊達市の特徴を表現しています。

後段部分は、市民憲章制定の意義並びに市民の決意を表現しています。

[前文]

- 1 「自然」と「環境」で、自然をはじめ生活や教育など、様々な環境のより一層の向上を目指すまちづくりをイメージしています。
- 2 「歴史と文化」と「誇り」で、縄文文化、開拓の歴史、市民文化などを背景にふるさとを愛し将来に誇れるまちづくりをイメージしています。
- 3 「きまり」と「助け合う」で、社会生活の規範を大切にし、お互いを認め合い助け合うまちづくりをイメージしています。
- 4 「若い力」と「夢と希望」で、次代を担う子どもや若者の可能性を伸ばし、躍動するまちづくりをイメージしています。
- 5 「人々との交流」と「未来」で、地域や世代を超えた交流を通して理解を深め明日へ飛躍するまちづくりをイメージしています。

《編集・発行》

令和元（2019）年6月発行

北海道伊達市（企画財政部企画課）

電話 0142-82-3114（課直通）

URL <http://www.city.date.hokkaido.jp/>

E-MAIL kikaku@city.date.hokkaido.jp